



報道で紹介された美瑛高校 19

◆令和6年9月1日(R6. 9. 7びえい新聞)

「出会いふれあい祭り」生徒14名教職員5名が参加しました。休みの日にもかかわらず多くの生徒先生が参加しました。入場してすぐの一番目立つ場所に「美瑛高校」コーナーを開設していただきたくさんの方々が本校の活動ビデオやドローンを見ていただきました。参加した皆さんお疲れさまでした！

高校大学の学生もボランティアで協力 びえい出会いふれあい祭り開催

多くのボランティアの協力のもと、子どもから高齢者まで世代を超えて楽しく交流。びえい出会いふれあい祭りが、9月1日に町民センターで開かれた。町民センター駐車場にはアツタが軒を連ね、飲食バザーや社会福祉協議会をはじめとする各福祉関連の団体が作品などを販売。美瑛消防署コーナー、美瑛町建設業協会の重機体験、美瑛ロータリークラブの緑日なども子どもたちの人気となっていた。社会を明るくする運動コーナーではクリアファイルなどを配布。人権まもる君も登場し子どもたちを喜ばせた。館内では、大雪青少年交流の家の缶バッジづくり、社会福祉協議会のふまねつと体験コーナー、射的をはじめ様々な催しを用意。美瑛高校コーナーではドローンを展示するなど学校の特長をアピールした。室蘭工業大学や大妻女子大学もそれぞれコーナーを設けたほか、龍谷大学の学生たちも子どもたちの広場で子どもたちをもてなした。

多目的ホール「美丘」では、道外研修に参加した小中学生が3泊4日の大阪府と和歌山県での研修内容を発表。大阪城天守閣やかき氷の食品サンプル製作体験、梅干し作り、南紀熊野ジオパークなど5班がそれぞれ発表。「すくく学び」になった。道外研修はぜひ参加してほしい。

との感想を受け、吉川智巳副町長は「発表に感心させられた。良い経験になったのではないかと研修に参加した小中学生をねぎらった。また美瑛小学校スクールバンドと、美瑛中学校吹奏楽部が演奏を披露。大きな拍手が贈られた。バザーコーナーで提供されたカレライスなどは、午後には売り切れとなる人気。美瑛高校や東京経済大学の学生たちもボランティア

で一緒に運営を支えた。締めくくりの「もちまき」の前に、社会福祉協議会の古村祐一会長が「一緒に楽しむのが祭り。最後まで楽しめる祭りで感謝したい」、吉川副町長が「これだけ多くの子どもがいることに驚いている。今後も世代間の交流を深めてもらえれば」とあいさつ。多くの人々が集まった正面ホールから盛大に紅白もちがまかれ、たくさんの方々が笑顔を広げた。

